

平成29年度第1回 壮警町総合教育会議議事録

1. 期 日 平成29年7月27日(木)
2. 場 所 壮警町役場大会議室(2F)
3. 開 会 午後4時30分
4. 閉 会 午後5時28分
5. 出 席 者
町長 佐藤 秀敏
教育委員 松永 美継
教育委員 金子 祐一
教育委員 濱田 美和子
教育委員 成澤 敏勇
教育長 田鍋 敏也
生涯学習課長 山本 貴浩
総務課長 作田 宏明
総務課参事 庵 匡
総務課参事 上名 正樹
総務課企画財政係長 武岡 忍
6. 議 事 (1) 壮警高校の移転について

議事大要 別紙のとおり

1. 開会

庵参事 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成 29 年度第 1 回壮警町総合教育会議を開会させていただきます。なお、議事に入るまでの間は、私の方で進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

 それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。

2. 町長挨拶

庵参事 まず始めに町長からご挨拶をお願いいたします。

佐藤町長 一言ご挨拶を申し上げます。先の久保内小学校の協議に引き続きまして、その会議にご出席ありがとうございました。

 教育委員の皆様におかれましては、多忙中のなか、こうして第 1 回目の会議へご出席を賜りましたことを心よりお礼を申し上げる次第でございます。

 さて、昨年の会議では、懸案となっていました壮警高校の今後のあり方について、庁内での分析、検討結果や、町議会との議論も踏まえ、当時の段階では町の考え方について皆様方にご説明したうえで、皆様のご意見を拝聴させていただきました。

 今回の会議では、その後の検討状況等についてご説明させていただき、今後の方向性等について議論させていただければと考えております。

 引き続きまして、教育委員の皆さんにおかれましては、ご理解とご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

 本日は、何卒よろしくお願いいたします。

庵参事 ありがとうございました。

3. 教育長挨拶

庵参事 次に田鍋教育長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

田鍋教育長 皆さんこんにちは。私からもご挨拶を申し上げます。

 この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に基づき、本町では平成 27 年 9 月 8 日に設置されたものであります。平成 27 年度は教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策の基本となる方針を協議し、同年 10 月 8 日に壮警町教育大綱が制定されたところです。昨年度は、今町長からございましたとおり壮警高校の今後のあり方における方向性についてという長年の懸案について、8 月 29 日に町長から方針の説明をいただき、各教育委員さんからご意見を発言をいただいたと承知をしております。

 本日の会議は、その後の経過と今後について町長と教育委員の皆様が意見交換をする貴重な機会と承知をしており、本町の望ましい教育環境づくりの推進に有意義な機会になることを期待し、簡単ではございますが、ご挨拶とさせて

いただきます。

皆さん本日はよろしく願いいたします。

4. 議事

庵参事 ありがとうございます。それでは、早速議事に入りたいと思います。
議長につきましては、総合教育会議運営要綱第4条に基づきまして、佐藤町長に議長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

佐藤町長 それでは、議事に入らせていただきます。
本日の議事は壮警高校の移転についてであります。本件につきましては、まず始めに事務局より壮警高校の移転に係る本町の検討、対応経過等についてご説明をさせていただきます。事務局よりご説明いただきます。

庵参事 それでは、事務局よりご説明を申し上げます。壮警高校の移転に係る本町の検討、対応経過についてでございますが、壮警高等学校の移転等につきましては、昨年、平成28年度の町政執行方針の中で、壮警高等学校の老朽化の問題や中学校統合後の学校のあり方などについて、将来を見据えた方向性を平成28年度中に決定しなければならないとして、内部で検討を行ってまいりました。
また、昨年、ほぼ1年前の、昨年8月の総合教育会議においては、今後も高校を存続していくことを前提とし、その上で、統合後の久保内中学校校舎への移転、活用していくという方向性に基づいて、引き続き検討を加えてまいりたいというご説明をさせていただき、皆様からもご賛同をいただいたところでございます。

その後、昨年9月の議会においても、存続を前提とした場合、校舎の老朽化対策が喫緊の課題であり、その対応策として、久保内中学校の統合後の空き校舎への移転、活用を図る方法が、現段階では最善であると認識していると、そういった見解を示したところでございますが、本年3月の第1回定例会においては、高等学校については、胆振西学区の生徒数の減少情勢を踏まえ、当分の間、老朽化が進んでおりますが、一部修繕を図りながら、現校舎での高校存続を進め、高校移転等の議論は、しばらく状況を見た上で改めて検討させていただくとのことをご報告を本年の町政執行方針の中で、させていただいたところでございます。

このような経過に至ったことにつきましては、やはり急速に子どもの数が減っており、今後も減少が続いていくことを考慮すると、もう少し慎重に判断したほうが良いと考えたことが、主たる判断理由でございますけれども、高校の運営には多くの町民の皆様のご理解が必要であることから、今後も教育委員の皆様、議会をはじめ、皆様のご意見をお聞きしながら、判断していきたいと考えておりますので、ご理解を賜りますよう、お願いいたします。

以上が壮警高校の移転について、本町の検討、対応経過についてのご報告、ご説明でございます。

佐藤町長 ありがとうございます。ここで私の方から壮警高校のことにつきまして、少しお話をさせていただきます。

昨年の総合教育会議の中においても、壮警高校の今後のあり方における方向性について、皆様方にお示しをいたしました。その折に第4回の定例会の一般質問に対しましての私の答弁等も踏まえて、皆様方にご紹介をさせていただきました。その中で、生徒の多くが町外から通学している現状でありますけれども、この子どもたちが高校生活を通じて、我が町を知り、定住し、本町の将来を担っていただければという、そんな考えもございました。また、できるならば、存続をさせていきたいなという、そういうご意見をさせていただきました。

しかしながら、一方で人口減少あるいは少子化の影響による高校の入学者数の減少している現状を踏まえながら、改めて検討していかなければならないというお話をさせていただきました。しかしながら、本年第1回の町政執行方針の中で、西胆振学区の生徒数の減少によりまして、壮警高校の久保内中学校空き校舎への移転については、もう少し時間をかけて、じっくり考えていきたいという町政執行の中でも表明をさせていただきましたけれども、しかしながら、総合会議の中で、私の考えを申し上げ、そして、本年に入りまして、執行方針を議会にお示ししましたけれども、事前に教育委員さんにも私の考えを改めて申し上げる機会を作らなかったことに対しましては、本当に皆様方には申し訳ないなというふうに思っております。

そういった中で、今日の議題であります壮警高校の移転について、私が町政執行方針の中で、お話しした内容について、委員さんがどのようにお受け止めになったか、お聞かせいただければなというふうに思っております。

以上でありますけれども、まず、松永教育委員さんの方から。

松永委員 私、昨年の8月29日、総合教育会議が、実はその日病院を手術で退院したばかりで、個人的な話ですけれども、まっすぐこちらにお邪魔させていただいて、体調不完全、そして準備も不足した中で会議に臨んだわけであります。その中で、それぞれ事務方からいろいろと高校移転について、存続、それから高校移転について、様々な資料の提供をいただき、そして私も会議の中で、高校は存続すべき、そして、教育施設の、中学校が統合という、その中で、久保内中学校の空き校舎を教育施設として利用するのが一番有効であろうと、それで当然町財政も踏まえた中で、現壮警高校の校舎の老朽化、ここに新たに校舎新築というのは、大変な財源を伴うわけですから、一番良い方法として、町長さんのこの間の議会での、9月の定例会で、議会において、お話をされているように久保内へ校舎を移転することが最善の方法であろうという形の中で、委員会も少なからずというか、多くの時間を割きながら、久保内中学校の空き校舎の活用について、壮警高校移転を前提とした方向で考えていくということ、それに向けて討議をし、様々な意見をいただきながら、その方向を示していたというふうに思いますし、教育長を通じて、理事者である町長さんには、その

意向が十分に伝わっていたというふうに解釈をしております。

ですから、9月の議会から3月のこの議会までの間に町長さんがお考えいただいたことが180度とは言いませんけれども、要するに久保内への移転を見合わせるということに至った経緯については、釈然としない思いが残ってました。なぜそうなったのかと。これは町財政、限りある財政を少なからず使うわけですが、そういったシミュレーションもしながらの中で、一番有利な方法ではないかというような形だったというふうに思っていますし、それから、通学に関してのシミュレーションであったり、そういったことも含めて。

それとまず存続については、3年の経緯を見て、子どもの減少、3年目は胆振校区の中学卒業生の数が極端に減った形の中で、21名という形で減少はしましたけれども、推移としては、それ以前の入学者数から見ると格段の増加をしたという状況でありましたし、つまり、地域農業科へ学科転換してから、非常に効果が表れているというふうに捉えていましたし、それを含めて、良い方向として校舎を久保内に移転、そして、久保内という地域が非常に地域の教育力の高い場所であり、これは個人的な意見でありますけれども、高校というものに対しても、その地域が、久保内の地域の住民の方や、それから農業に携わっている皆さん方が理解を示し、いろいろな形で協力体制をとっていただける地域ではないかと、そういった期待感も含めながら、統合後の空き校舎を有効活用として、壮瞥高校の校舎にというふうな方向性を示したわけでありまして、それがなぜ急に見合わせると、こちらに書かれていますように、ただこれについては、子どもの少子化現象というのは急に始まったわけではなくて、去年の総合教育会議の時にも、今後どうなっていくかというのは目に見えていたものであったというふうに思いますので、その子どもの減少傾向が大きな理由で、久保内に移転することをあきらめたという結論にはどうも納得がいかない、納得がいかないというか、それだけではちょっと腑に落ちない部分が非常に個人的にはありました。

それと、これは最終的には理事者のご判断ですし、委員会はあくまでも専門的に担当する場所ではあるにしても、最終的な決断というのは、これは町部局、理事者がお決めになることでありますから、その決めたことについて、とやかくということはないのですけれども、なぜそうなったかということの理由が納得のいく、説得力のあるものではなかったように感じております。これは個人的感想ですけれども、そういうふうに思います。

であれば、議会の皆様方のご意見が町長さんの意向に大きく影響したというのであれば、議会で何回この問題についてお話をされ、そしてどの議員さん方がどのような意見があり、そしてそれを踏まえて、町長さんの考えがこのように変わったのだということを示してほしいというのは個人的な思いであります。どなたがどのように考え、町民の代表者である議員の皆様ですから、優れた見識の中で判断をされた、あるいは町全般の行政に対しての日頃からの見識を議会で意見をされ、それで町長にお話をされたことを受けて、つまり最後に書かれていますように、高校の存続については、高校の運営については多く

の町民の皆様のご理解が必要である、その多くの町民の皆様のご理解というものは、議員さん方を通して、多くの町民の方々のご意見が議会に反映され、町の方向性を導くものだというふうに考えますから、であれば多くの町民の皆様のご意見を賃借し、そして議会で述べられた方々の意見が、私は十分に把握できていない、それは議会報をちゃんと見ていないおまえが悪いのだとか、そういったことなのかもしれませんけれども、一応教育委員会の場所を担っている一人としては、こちらで委員会全員の方向性で決めた考えで、一つの方向性を出したものが、そうでなくなったということを、議会でこのような意見があったからともし言うのであれば、その辺はきちっと見せていただきたいと。それで、何回お話をされ、どのような意見があり、そして、それがこのように影響し、こういう結論に至ったのだということは、できれば文書で示していただければありがたいなという思いでもあります。それが一つであります。

それから、移転を当分の間状況を見た上でとありますけれども、当分というのはどのぐらいのことなのかと、いわゆるどのぐらいの期間を置いて当分というのか、いつまでもは当分ではないわけでありまして、それを示していただくことも大事なことだというふうに思いますし、先ほどと同じことを触れますけれども、その先送りをする理由の一番大きなポイント、それは何だったのかと。ここには子どもの数の減少ということがネックになっているように書かれていますけれども、では財政面についてはどうなのかと、これは一切触れていらっしやらない、この経過の説明書の中には、触れていらっしやいませんから、それは理由ではないのかというふうにも、疑問を感じます。

それで、校舎を新築するよりも移転の方が財政面では、それは有利だということを示していますから、それ以外にも改築をしたり、いろいろ経費がかかる部分は出てくるわけですが、そういったことも含めて、もう少し詳しいお話、説明、理由、それをお話をいただけたらありがたいというふうに思います。大体そのようなことをずっと思っていました。

それから、教育長との委員会の意向を事前にすり合わせをいただいていたかというふうに思いますけれども、教育行政執行方針の中で触れられていて、第一義的に久保内の空き校舎については、壮瞥高校移転を前提と考えているということを明示していますから、それが町理事者の、その高校移転を見合わせると、この違った両執行者の方向性の違いというものは、同じ行政の執行者としては、ちょっと疑問を感じる部分があるのかなというふうに思いますし、そこら辺も含めて、ちょっといろいろ申し上げて大変恐縮なのですが、お答えをいただければありがたいなというふうに思います。以上です。

佐藤町長 ありがとうございます。まず、今いただいた意見で、9月の定例会から今年の第1回定例会までの間に、こういうふうに変ったと、考え方が変わったという、その理由ということですが、理由は先ほどから申し上げているように、やはり少子高齢化が進んでおりますし、これからの入学者数の減になるのではないかという、そういった心配事もありました。

というのはやはり、今この西胆振学区においても、高校に入学される生徒さんが少なくなっているという状況を報告いただいておりますし、また中学校を卒業して高校に入る中学校の卒業生も自ずと減ってくるわけであります。そういったことから、もう少し高校について、しっかりと検討させていただければなというふうに思っております。

財源のことかというお話もありましたけれども、確かに高校には大体単費で2千万円から3千万円ぐらいの経費が、単費でかかっているというふうに思っております。そういったこともありますけれども、財源がその理由ということではなくして、やはり久保内に移転しても、生徒さんが減ったときに、また久保内に移転して、高校をどうするのだ、こうするのだという議論にもまたなってくる心配もございましたので、そういったことも踏まえると移転をちょっと見合わせさせていただきたい、そういう考え方で執行方針の中でも自分の考え方を申し上げさせていただきました。それで、当分というのは、いつまでのことかと言うことを聞かれましたけれども、その時期というものは、なかなか見いだすことは難しいかなというふうに思っております。

議会の方でも、予算委員会の中でも、その時期について、当面という時期はいつまでなのだというご意見いただきましたけれども、時期については、ここで申し上げることは今のところではできないというお話をさせていただきました。

また、議会でのご意見ですけれども、議員さんのご意見ですけれども、様々なご意見がございましたけれども、決して私の考え方がこのように変わったことが、先ほど申し上げたようなことであって、議会の皆さんの意見がああだったからこうなったのだということはないというふうに受け止めていただければというふうに思います。

松永委員 議会の意見を受けて意向が半年の間で変わったわけではないということですよ。

佐藤町長 委員さんの意見というのは、私も尊重しなければならないというふうな考え方は持っております。

松永委員 委員会の意見もあるわけですが、一応教育に関しては、教育行政については、委員会が専門的に考える部署として様々な考え方を示している中で、これはあくまでも教育に関しての部分ですから、町内にそういった公共の施設がたくさんあり、老朽化が進み、それ全体をどう今後運営していくのか、撤廃していくのか、そういったことも含めての総合的な考え方の中での一つではあるけれども、この教育施設に関しては、教育委員会所管の中で、それについての利活用というものを最善に考えていた中で一番良い方法だというふうには実は思ったわけなのです。ですから、それが覆されるという言い方は、まだ余韻を残しておりますので、そうしないとは言い切っていないのですが、深く

読み取ると、これはもうしませんよということだというふうに判断できると思うのです。つまり、当面の間見合わせるというのは、もうそれはありませんよと。では当面の間見合わせている久保内の校舎を、ではどのようにするのだと、空き校舎をただ空いたままで維持管理していくのかということですから、それは違う利活用の方法を考えていった上で、久保内の校舎については、もうここは移転しないのだから、違う形にする、取り壊すのか、あるいは違う施設に変えるのか、あるいは民間に売ることか、そういったものが今の段階で、おそらくまだ結論は出ていないというふうに思いますけれども。ですから、つまり中途半端な状態で、どっちつかずの状態を長く続けることは、どっちにも進むことができないのです。つまり何もできない状態が長期間続くわけですから、そういったあり方は非常によろしくないなど。それであれば、はっきりと久保内移転はいたしません。それで、空き校舎については、違う利用法を考えるというようなことを言われた方が、かえって先に進む時間も短縮しますし、では、現校舎、壮警高校は存続するという結論は完全に出しているわけですから、これを置いて、久保内に持って行って、少なくなったら、また止めようか、自然消滅したら良いのではないか、お金かかるから。そのような話で、このお話をされているとは思いませんので、ですから当面見合わせて、自然に子どもたちが少なくなって、努力もしないで、これは3年間で、学科転換してから高校の生徒数が大きく増えたのは、相当な努力があったわけです。それはもちろん認めていращやると思いますし、そういう中で、では町行政として高校というものを、壮警高校というものを壮警町がどのように捉えて、そして普通の他の普通科の高校と壮警高校のその存在意義、農業高校として西胆振唯一の高校で、そして様々な地域との交流であったり、それからいろいろな影響があったり、こういった活動を相当に評価されている部分もあるし、それから、例えば、中学校のときに不登校であった子が壮警高校に来て、本当に毎日学校に通うようになった。つまり教育機関ですから、それがしっかりと教育効果を上げているということ自信を持って発信している場所でもあるわけです。ですから、壮警町の発展の一つの大きなアイテムになるということ考えた時に、なぜ前向きな存続、それから後ろ向きではなくて、勇気ある撤退という言葉もありますけれども、前向きな執行、こういったことをやっといこうということの話になっていかないのかなということが非常に、多少でありますけれども教育行政に少し参画をしている私としては、思います。そういう気持ち、情熱がなければ、何事も物事が進んでいかないというような思いであります。私だけ一人、こんなにしゃべったら問題なので、後は発言を控えたいと思います。

佐藤町長 ありがとうございます。松永委員のお考え方をお伺いしました。それでは次に金子委員さんの方から。

金子委員 昨年、新教育委員会制度に変わり総合教育会議が行われたわけですが、その中では久保内中学校の統合後の空き校舎を使うということで町長と教育委

員会で同じ方向を向いていて、それは総合教育会議という意味でも良いことだと思ったのですが、その後3月の定例会でちょっとびっくりしたというか、町長も先ほどおっしゃられましたけど、その間に、新しくなった制度ですのでまだちょっとわからないところもあるのですけれども、ご説明いただければもう少しスッと下りたかなと。後はもう壮警高校の問題に関しては町長がお考えになって決めたことですのであれなんですけど、今後の壮警高校のあり方という意味ではちょっとわからない、存続は前提の上での話なのか、存続もまだわからない、存続を進める上で、高校移転の久保内中学校は、ということですよ、高校は存続をすることを踏まえて今後本当に町立高校、壮警高校に入ってくる生徒さん、夢を持って入ってくる生徒さんの期待をそがないような、途中で終わってしまったらですか、それに向けた教育長と壮警高校の校長が管内の中学校に説明に行ったりする、その辺の気持ちも踏まえてやっていただければと思います。また今後、総合教育会議を踏まえて、町長といろんな問題を同じ方向を向いていければという希望でいます。以上です。

佐藤町長 ありがとうございました。

金子委員も、やはり執行方針の中で申し上げた私の考え方について、短期間の内に変わったのは何なのかというようなご意見でしたけれども、先ほどから申し上げるように、やはり少子化と生徒数の減少が今後心配されるので、そういったことで、仮に久保内に移転をしたとしても、先ほど申し上げたように、また生徒さんの減少によって、今後どうするんだ、こうするんだということに議論が再燃すると、やはり久保内の皆さんにもまた新たな心配というか、そういったことを、今でさえ中学校が統合され、あるいは小学校の生徒さんも少なくなっている中で、そういったことを心配される懸念もあるなということも私の頭の中にはございました。そういったことで、やはり生徒さんが少なくなるということが第一の心配事で考え方が変わったというご理解をいただければというふうに思っております。決して、先ほど松永委員から、議会の議員さんが、どなたがどうしたとかこうしたとか、議事録を見ていただければわかりますのでそういったことは省略させていただきますけれども、考え方はそういうことだということでご承知いただければというふうに思います。

それでは濱田委員さん。

濱田委員 壮警高校の移転については、教育委員で、町長の考えとお話ししながら、月1回の定例会議では、ずっと移転になるんだろうと考えて、いろんなことを考えていました。交通の便、バスをどのようにするかとか、久保内に移ったら、生徒は今まではセイコーマートを使ったりしていたのだろうけど、お店も無いので、お店をどこかに作らなければならないとか、たくさんを会議の中で考えていたのですけれども、3月の定例会の時に、もう移転しないということを知って、えっ、今までいろいろ考えて何だったんだろう、何が悪かったのかな、何が無理だったのかということが、何も聞かずに、ただ移転は取りやめと

ということに対しては、ずっと、どうしてだったんだろうかなという気持ちしかなかったんですけども、今このようにして子どもの数が減っているということを考えますと、やはりそうなのかなと思います。

それで、今後、壮警高校を存続という形を町長もお考えでしょうし、私たちも考えていますので、これからはどのような高校に、もっと子どもは少なくなっていくけれども、もっと壮警高校に入学するという子どもたちを増やしていくのには、今以上の、高校の内容を、もっと魅力ある高校であったら、子どもが少なくなっても入学するのではないかなと思いますけれど。その内容はどのようなのかというのは、これから教育委員並びに町長ともいろいろお話しして、存続をしていってもらいたいなと思っております。

佐藤町長 ありがとうございます。

教育委員さんが、久保内中学校の統合と共に空き校舎の活用について、地域とも様々な議論をされて、久保内中学校の空き校舎の活用について、教育委員会で議論をしていただきましたけれども、本当に皆様には申し訳ないですけど、そういった私の考えにいたったというところでございます。

今後についてはもう少し時間をいただいて、どうするかについては改めて皆様と協議をさせていただければと思っております。

それでは、成澤委員よろしく申し上げます。

成澤委員 皆様からも出ていましたけれども、まず一点目、9月から3月の間に意見が変わったというか、そういう部分を、総合教育会議っていうのもし出来るのであれば、その間に一回挟んでも説明をしていただければ、僕たちもすんと、そうか、ならばまた別なことを、というふうに思えたのですけれども、そのところをもう少し説明していただければありがたかったなと思っております。

それから高校のことなのですが、実際に高校の方に行かせていただいて、素晴らしい教育をしていることは明らかだと思います。通っている子どもたちのその姿勢だったり、本当に素晴らしい学校だと僕は思っております。これは壮警町にとっても一つの大きな自慢に僕はなっているんだと、今までもなっていたと思いますし、これからもなり得るものだと思いますので、もちろん生徒数が減少していけば、様々なことを考えなければいけないんでしょうけれども、それでも、なんというのでしょうか、ぎりぎりまで存続させるんだぐらいの気持ちを持っていただいても良いような、僕は、まちにとっての壮警高校だと思っております。なので、出来れば存続という方向ではっきり言っていた方が、たとえば、修繕していくにしてもお金をかけられたり、あるいは、いろんなアイデアが出てきたり、ということがあるのかと思います。いつ終わるかわからないよっていうのがどっかに見えてしまうと、入ってくる生徒さんたちもそうでしょうし、バックアップしようと思うまちの方々もやはり不安になるのかなと思いますので、その辺も、もし出来るのであれば、はっきりと、どんな形であれ存続するんだと言っていたいただければ、ありがたいかなと思います。

また、それに伴って久中の空き校舎の件ですけれども、しばらく状況を見た上で改めてということになってますけど、やはり一年一年経つごとに人が住んでいない、子どもたちがいない校舎というのは、劣化という言葉が正しいかどうかはわかりませんが、どんどん劣化していくのではないかと思います。先日、久保内中学校の空き校舎にちょっと行って見たのですが、教育委員の事務局の方と入ることがあって。そのときにも、やはり子どもたちがいない学校というのは、本当に、あれっ、こんなにこんなところすすけていたのかなとか、屋根はこんなのだったかなとか思うぐらい、いろんなことが出てくるんだと思います。今後もそれは出てくると思います。

ですから、壮警高校の移転というのが、もし無いんだと、一切ないんですよということであれば、そこから先、久保内にあるあそこの校舎をどうしていくのかという考えを進められると思います。特に、久保内地域にとっても、様々な公共の施設をこれからどうしていくのかというのがあるかと思うので、その中の一つの案として、久保内中学校の空き校舎の活用ということも考えられると思うので、その辺もちょっと考えていただければと思います。特に、災害等、有珠山のみならず、豪雨とか最近の天候事情様々ありますので、様々な災害があったときの避難所としても、一般の持ち物だとしたらなかなか難しいのではないかと想像しますので、公共の施設として、久保内地区にも校舎、校舎というか、久保内中学校の空き校舎の部分、これからもあってほしいなと地域としては思っております。以上です。

佐藤町長 ありがとうございます。成澤委員も、9月から第1回定例会までの私の考え方の変更についてのお話ありがとうございましたし、定例会前に、教育委員さんとの意見交換をして、私の考え方をお示しすれば良かったと思っております。冒頭でお話させていただいたように、それは事実ですので、申し訳ないと思っております。今後はそのようなことがないように委員さんと密にしていければと思っております。

また、確かに、今の壮警高校は皆様ご承知のとおり、地域に溶け込んだ生徒さんがおり、良い高校であるということは私も認めておりますし、また、高校生の姿を見ていますと、何とかうちの子どもたちもこの高校に入ってほしいなという思いがあります。残念ながらうちで生まれた、中学校を卒業した生徒さんたちが壮警高校に入らないというのが私が一番懸念しているところでもございます。今年は幸いにして2名入学されましたけれども、本当に町立高校が何のためにあるのか、高校が始まった当初は、やはりうちのまちの子弟のみなさんが教育を受けてそれぞれの仕事につくという人材育成の場所でもあったかなと思いますけれども、近年は、うちのまちの子どもさんが入学されないということは、非常に私自身としても残念に思っているところでございます。

今後の存続かどうかというのを久保内の空き校舎の今後の使い方においてもはっきりさせた方が良いというお話がございましたけれども、さきほども松永委員さんからもそういったご意見をいただきましたけれども、そういったこ

とをはっきりする機会を設けたいというふうに思いますし、久保内の中学校はやはり有珠山噴火あるいはいろんな災害の避難所として活用してきた、活用する場所になると思いますので、これはもう少し細部にわたって、この校舎の活用については検討しなければならないなと思っております。私はそういったことで、成澤さんの考え方に対する私の意見とさせていただきます。

先ほどの松永委員さんの教育長の所信のご意見と私の意見と真逆ではないかという意見がございましたけれども（松永委員より：そこまでは言っていないです、という発言あり）、決してそうではないと私自身は考えておりましたけれども。

教育長の方から。

田鍋教育長 今、まさしく町長がお話された町政執行方針について並びに教育行政執行方針について、松永委員さんから先ほど話された3点目になるかと思うのですけれども、そのことについて、私からもご説明を冒頭にさせていただいております。経過を振り返りますと、一月の下旬、町政執行方針並びに教育行政執行方針、予算編成と共に双方の骨格ができた段階で確認をしていると。その中で、若干ニュアンスは違うかもしれませんが、そんなに差異はないのかなというふうに思っていたところでもあり、町政執行方針には高校移転等の議論はしばらく状況を見た上で、改めて検討させていただくという文言もあり、いったん立ち止まって改めて検討するものと私自身は解釈していたところでありました。そうした中、この時期は久保内中学校の統合、他案件もあり、結果として教育委員さんの皆さんに町長が冒頭話されていたとおり、情報提供がなかなかできないまま、3月議会を迎えたということであると認識しております。2月13日教育委員会で、教育行政執行方針を確認いただいた際に、町政執行方針の案を教育に関する部分だけでも、皆様に確認をいただく、お示しをすれば良かったのかなと思っております。結果的に情報提供が遅くなりました。町政に対する不審を抱かせてしまったのではないかなとそのように思っております。私からもこの点については、お詫びを申し上げたいなとそんなふうに思っているところであります。

昨年8月以降、議会では一般質問で見解が示され、先ほどのとおりですけれども、以後、総務委員会、全員協議会等で検討がなされたものと承知をしており、これにつきましては適宜、教育委員さんの協議会の中で、情報提供をさせていただいていたつもりでもあります。そうした中で、私の押さえとしては存続に否定的な意見、発言をなされる方については、公にはないと認識しておりますが、高校については、委員の皆様にも共有できると思いますけれども、5年6年で始まった話ではなくて、長年の懸案であり、そうした中での移転について、多数の賛同を得るのは難しい環境であったと認識しております。こうした経過で、要因もあって、それが大きな要因であるかどうかということはまた議論があるところでしょうけど、町政執行方針を表明されたものと私なりに考えております。教育委員会は、理事者の意向に沿って教育行政を執行する考

えであるということは、すでに開催された教育委員会の中で委員の皆様には私の方からご説明させていただいていたところだと思っております。これからも町長部局との調整をより密接に図りながら望ましい教育環境作りに力を注いでまいりたいとこのように思っているところでありますので、ご理解をいただければなと思っております。

また、最後に高校が限られた予算の中で、着実に課題の改善をしているということは、現場にいる優秀で志の高い教職員各位の尽力の賜物かなとこのように思っており、感謝の意を表したいと思っておりますし、また、この経過につきましては、議会後になりましたけれども、教職員並びに高校の保護者にも説明会で私の方から説明をいたしておりますことを申し添えまして、私からの発言といたしたいと思っております。以上です。

佐藤町長 各委員の皆さんからお話を一通り頂戴いたしました。各委員のご意見については、私からも先ほどコメントをさせていただきましたけれども、改めて、教育委員の皆さん、教育長を始め壮警高校の教員の皆さんは、壮警高校のために教育環境の充実のため、魅力ある高校づくりのためにご尽力いただいたことに対して本当に改めてお礼を申し上げたいというふうに存じます。そのことによって、平成 26 年度からの学科転換において、生徒数が増えたということは本当に喜ばしいことであつたかなと思えますけれども、しかし、今後、やはり生徒数が減るのではないかという懸念が私は今でも持っております。そういったこともありまして、高校の久保内移転については、先ほど松永委員の方から、移転しないなら移転しないとはっきり申し上げた方が良いというご意見もいただきましたし、また、成澤委員の方からは、久保内中学校の空き校舎についての活用は、改めて存続しないのであれば、地域の皆さんと議論をしたら良いとのお話もいただきましたので、今後もこのことにつきまして、また皆さんに私の考え方をお示しさせていただきたいと、機会を設けさせていただきたいというふうに思っております。高校のことについては他にご意見があればお伺いしたいと思っておりますけれども。

松永委員 よろしいですか。もう発言しませんが申し上げましたが、大変申し訳ありませんがもう一言だけお話をさせていただく時間があればお願いしたいと思いません。

高校移転というのは中学校が空いたからの話になるわけで、中学校はなぜ空いたかというのはご承知のとおり、久保内中学校が壮警中学校に統合されたからなのであります。統合するにあたって、地域の方々と本当に数多くの意向調査を踏まえ、それから地域の方々と面談をし、そして、最初は本当に対峙するような状況であつた姿勢が、だんだんと軟化され、そして中学校統合に保護者の方々も学校もそれから地域の方々も全員とは言わないながらもそれに向けて了解をし、しかし、考え方として学校統合と高校移転というのは、切り離して考えるべきという議会の議員さんの意見もあつたとおり、そのとおりでありま

す。しかしながら、空き校舎というのは当然できるのですから、それはどうなるのだという中で、高校を移転する可能性がありますよということをお示しをしていただいております。そうすると久保内地域の方々は、一人一人がどのように考えるかはわかりませんが、中学校は統合されるけど、高校が来るのではないかという期待感をおそらくお持ちになった方々、そのようなものは来てほしくないよと思っている方々もいらっしゃるかもしれませんが、期待感があり、そして、定住、高校の教職員についてはほとんど通いはないわけですから、久保内地域の定住に、これは前向きな効果が出てくるという期待感もあり、先ほど例えば、交通の手段についても場合によってはバスを久保内中学校跡の高校まで道南バスが公共機関のバスを回すだとか、そういったことが、公共交通機関の維持につながったり、あるいは地域の方々が、そこで買い物されるための、何か拠点ができたり、そういった効果を期待をしていた方々に、我々だけではなく、この方針が細やかな説明には絶対ならないと思いますし、もっと言えばこれについてちらつかせた高校移転をやめたということの事由と謝罪までは言い過ぎだとは思いますが、期待感を持たせて本当に申し訳なかったということを改めて表明する必要はないですけれども、致し方ない選択だった、申し訳ありません、ということが地域の方々にも私は必要だったのかなと思わずにはいられない。つまり、ちらつかせて統合に賛成させて、統合したら、そのようなことにはなりません、というのはある意味で、ちょっと粗雑な言葉を使えば騙したのかと言われてたら、それは問題ではないかというふうに思うのです。ですから、確かにそんなことを言っていないのだから、そんな期待を持つことはないのではないですかと思うこともあるかもしれませんが、高校移転かというのは新聞にも報道された。そして、ある地域の方から言われました。ほら見たことかと。その新聞を私の目の前にぼんと、投げつけはしなかったですが、ほらやっぱりだろうと。結局こっちには移転しないのではないかというふうに、個人的な感情を披れきされた地域の住民の方もいらっしゃいました。そういったことを行政を執行するにあたっては、きめ細やかな、片方よければ、片方よくないということは当然あるわけで、みんながいいってことはないわけですが、それに至ったことを、教育行政に携わっている者だけではなくて、その影響下にある地域の方々にもお知らせをし、何らかの形でお話をする機会を設けるべきではなかったのかなと。これは私がそう思うことでありますけれども、そのようにある意味町政に疑念を抱いている方々がいらっしゃることも懸念されるのではないのでしょうか、という思いもあります。

久保内小学校の大運動会の際に町長さんがおいでになられ、そして、久保内地域の住民の皆様にお話しする機会がございました。その際に、何か一言そういうことが、でもあそこで言う話ではないわけであろうかと思っておりますけれども、そう言った気持ちの表れがあっただけでよかったなど。なかったとは言わないですけれども。そのような気が個人的にはしていることも。蛇足でございますけれども、話をさせていただきたいというふうに思います。以上です。

佐藤町長　私が久保内中学校の空き校舎の活用について、壮警高校の移転が望ましいのではないかという発言はさせていただきましたけれども、決して、そのことによって統合が決まったというふうには僕は考えてはいなかったです（松永委員より：それはまた別問題だと思います、という発言あり）。別の問題だと思いますし、騙したつもりもなかったのです。そのことだけはご理解いただければと思いますし、また、地域みなさんにお話すべきだ、謝罪すべきだというお話でしたけれども、実は大変申し訳ないのですけれども、この総合教育会議の前に4月、5月でしたでしょうか、自治会長会議で、自治会長さんがほとんどお集まりになった会議で、中学校空き校舎の活用について、高校移転については当面見合わせたいというお話をさせていただきましたし、また、執行方針で申し上げた内容等について、自治会長さんにもお話をさせていただきました、ということでございます。

厳しい意見しみじみと受け止めいたします。

他にこのことについてどうでしょうか。

皆様は教育委員という立場で、この久保内中学校と壮警中学校の統合についてご苦労された。その中で、こういうことを地域の皆さんと議論されたということは、報告を受けておりますし、教育長からもお話をいただいております。

そういったことはありましたけれども、先ほどから申し上げるようにそういった懸念、心配というのが私の頭の中にもありましたので、3月の第1回定例会ではあのような表明をさせていただいた、ということでもあります。

よろしいでしょうか。

（はい、という声あり）

それでは、他にご意見がなければ、今後も総合教育会議を活用し、教育委員の皆さんと情報、認識の共有を図りながら、検討を進めてまいりたいと考えておりますので、何とぞよろしく願いいたします。今日は誠にありがとうございました。

5. 閉会

庵参事　本日は長時間にわたりまして、ご協議いただき、また、貴重なご意見等をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。以上をもちまして、平成29年度第1回壮警町総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。ありがとうございました。